三番瀬評価委員会自然環境調査関係小委員会（第２回）の開催結果

（概要）

１　開催日時　　平成１８年１０月６日（金）午後６時から８時３０分
２　場　　所　　千葉県国際総合水泳場（第二会議室）
３　出 席 者　　委員５名
４　参加人数　　１４名
５　結果概要

（１）三番瀬評価委員会自然環境調査関係小委員会（第１回）の結果について
　○　事務局から、前回小委員会の結果を説明した。

（２）「県の三番瀬自然環境調査計画（案）」に対する各委員からの意見等について
　○　事務局から、県の三番瀬自然環境調査計画（案）に対して、各委員から提出された具体的な修正・追加等の意見を説明した。

（３）三番瀬再生会議への検討結果報告（素案）について
　○　各委員からの具体的な修正・追加の意見をもとに、小委員会のとりまとめ責任者である望月委員と事務局において整理した「三番瀬再生会議への検討結果報告（素案）－三番瀬自然環境調査のあり方について－」を説明し、検討が行われた。

（主な意見）
（全般）
・ 現況把握の調査は、傾向が見えるようになるには、継続に意味があるので、無理のない調査としてもらいたい。
・ 現況把握としてデータを収集していくことはよいが、あわせて、干潟のダイナミズムなどを、仮設検証する調査が必要ではないか。
・ 現況把握型調査は、変化しているかの判断を必要とする調査ではないので、これでよい。

（望月委員のまとめ）
● 三番瀬自然環境調査の目的は、三番瀬全体の現況把握のための調査であることを確認するとともに、それ意外のことについては、若干分けて扱っていく必要がある。
● 現況把握型調査の説明文案については、再度整理する。

（個別の調査内容等）

ア　深浅測量関係

・河川の調査では地形は３～５年ごと、水位と流量は毎時間測っている。

イ　底質調査関係

・地点数減でも間に合うと思うが、均等な配置、猫実川河口にウエイトを置く、再生の中で沖合にも配置することなど、配慮する必要がある。

・市川航路内の底質調査については試験的に１回実施し、その後のフォローアップを判断する。

・粒径と強熱減量は相関関係があり、粒径調査で代表できるのではないか。

ウ　水質調査関係

・水質監視データを検討するにあたって、基準値や定量下限値以下のデータもきちんと継続して見てもらいたい。

・現在の水質調査について、その位置付けなど、作表の仕方を変えたほうがよい。

エ　底生生物調査関係

・底質調査と底生生物調査は、調査点を同一にして関連づける。

・干潟的環境の再生を考えるとすれば、海浜植物の調査は干潟・浅海域における移行帯の基本要素として必要であるが、例えば、塩生植物の種類・拡がりを整理することなどが考えられる。

オ　藻類調査関係

・空中写真を利用してアオサの分布・動向を把握する方法については、三河湾でコドラート調査と併用した実績がある。

カ　鳥類調査関係

・鳥に関しては、５年に１度の調査だけではわからないので、市民サイドの調査記録との組み合わせによって、チェックしていく必要がある。

キ　新規に実施すべき調査（別表２関係）

・５年に１回、四季の水質調査以外に、現況把握項目として、汽水域の再生を考えるには水環境の観測（水温・塩分・流れなど）が必要である。

江戸川放水路の影響を受けやすい場所とか、停滞域と言われている場所とかそれほど多数ではなく、５年に１回、１年間配置し、動態を把握するなど。

項目的に見て、生物調査が多く、物理場が弱いので、バランスを考えたほうがよい。

・現況把握項目として、物理環境がないと生物は評価できないと思うので、水環境の観測は必要である。生物調査だけだと、なぜ変わったかがわからない。

・（水環境の観測は、）現況把握とは別枠の調査として必要である。付帯意見として、その実施について入れるべきものと思う。

・（水環境の観測は、）重要であり、調査を組む必要もあると思うが、５年に１回定期的に行う性格のものではなく、原因判別型的な調査ではないか。全体の調査の水準から見て、違和感があるし、つきあわせる生物調査も集中的にやらなくてはいけない。
・干潟の物理場・流動場をおさえることは基本であり、平均的な流動場の観測について、評価委員会として、別枠で提案していく必要がある。
・空中写真撮影については、大潮の干潮時に実施と記述してほしい。

ク　調査結果の解析・活用等（別表４関係）
目的に応じた調査精度の継続的な確保については、きちっとやってもらいたい。

ケ　その他（別表５関係）
干潟のダイナミズムを把握するための調査が必要であることを、強調し記述してほしい。

コ　それぞれの調査項目がモニタリングで何になるのか、表などでこれまでの経緯をからめ、わかるようにしてほしい。

（会場からの意見）
・三番瀬の堆積侵食関係について、平成１４年度調査と対比できるように、深浅測量を実施してほしい。また、市民調査の分担分野をうまく活用してほしい。
・三番瀬再生計画（事業計画）に対する三番瀬再生会議の答申がある程度まとまった。これまでの再生会議での議論を踏まえて調査体制を整備してほしい。
・評価委員会で特に気づいた事項は、再生会議に意見を述べることとしており、新たな調査課題についても提案してほしい。
・５か年調査計画ではスパンとして長すぎる。市民調査の結果も活用してほしい。

(望月委員のまとめ)
● 各委員は、１０月１３日（金）までに、検討結果報告（素案）に対する具体的な修正案を提出する。
特に、水環境の観測については、調査の目的・項目・調査地点などを含め、具体的な意見を提出する。
● 各委員から提出された意見をもとに、とりまとめ責任者と事務局で素案を修正し、再度、各委員に見てもらい、１０月２６日（木）開催の第３回三番瀬評価委員会に報告する。

以　上